

東部地域における回遊性の実現について

震災アーカイブ利活用拠点の振り返り (中心部・沿岸部の機能配置)

第7回委員会で示した内容の振り返り（機能配置・拠点）

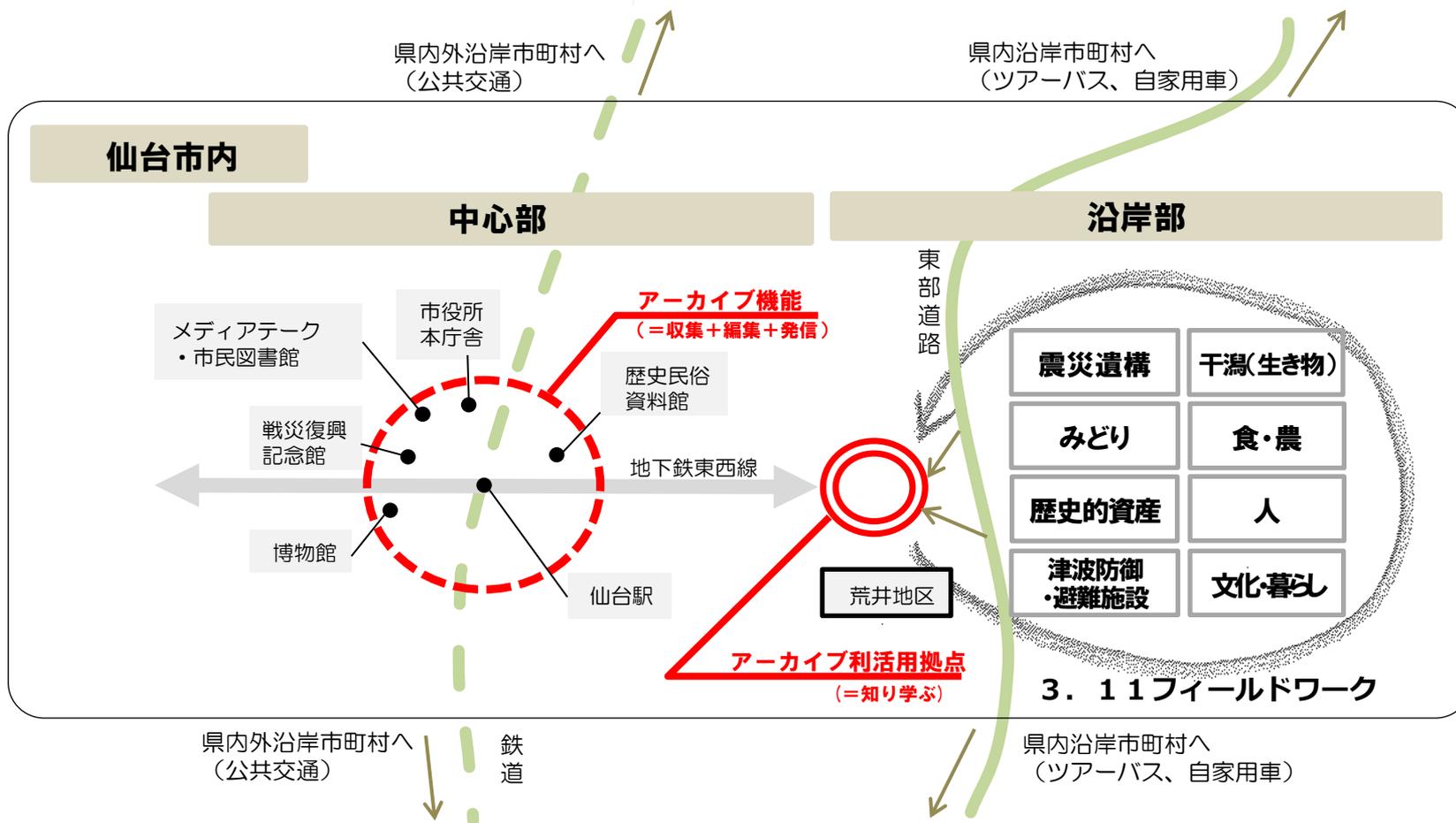
➤ 中心部・沿岸部、2地区での機能配置・拠点による継続的発信

<中心部の役割>

- ・東北、宮城の玄関口
- ・3.11を**収集・編集・発信**する機能

<沿岸部の役割>

- ・宮城、仙台東部地域への玄関口
- ・3.11を**知り学ぶ**拠点



議題「震災アーカイブ利活用拠点について」

○機能配置全体について

- ・宅地被害の状況を伝える場が必要では

○中心部の機能について

- ・中長期的にはセンターとなる拠点が中心部にも必要

○沿岸部について

- ・フィールドワークが重要
- ・東部地域での経験の設計が必要

伝え続けるための機能配置・拠点～中長期イメージ～【修正版】

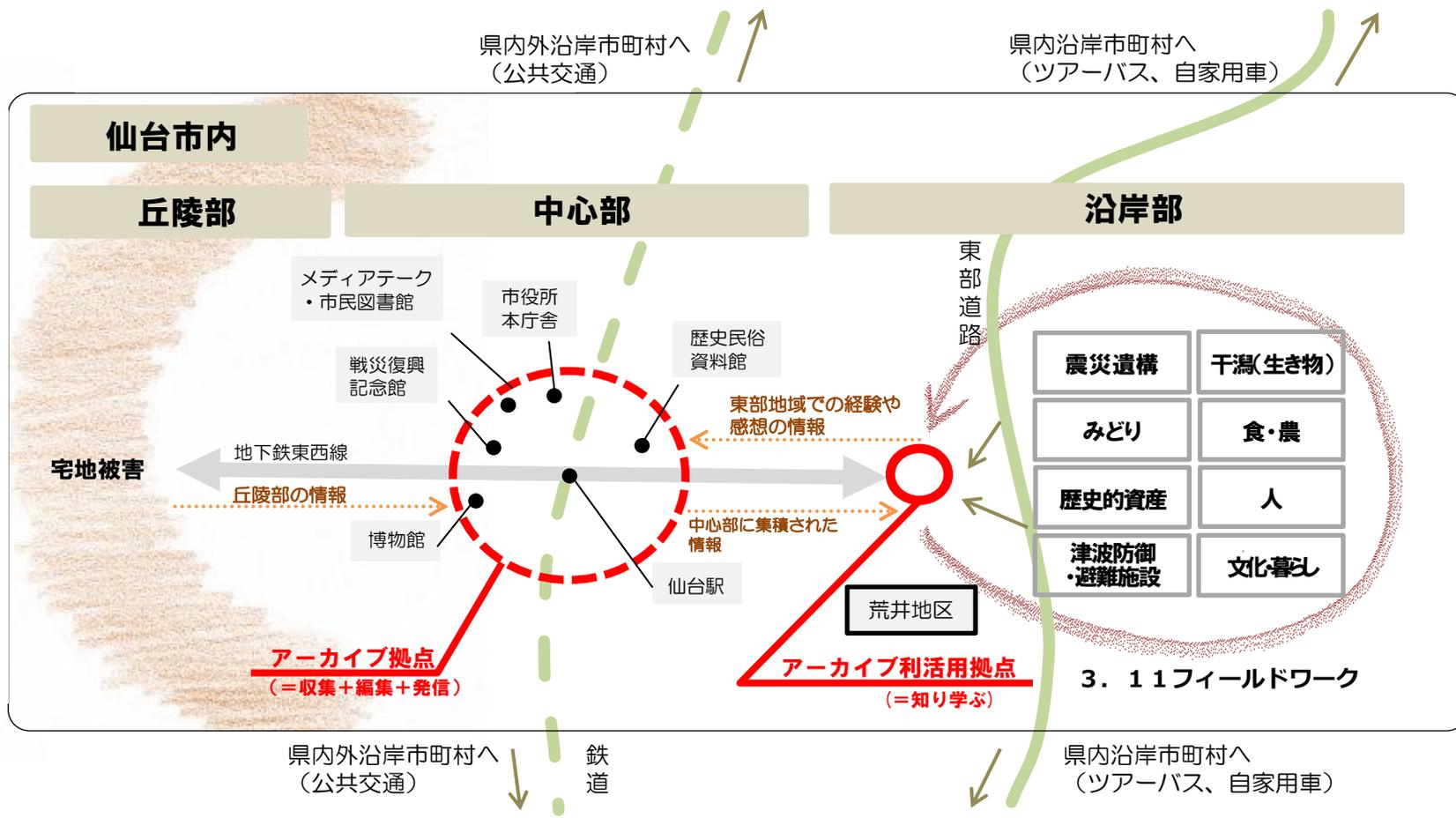
➤ 中心部・沿岸部、2地区での機能配置・拠点による継続的発信

<中心部の役割>

- ・東北、宮城の玄関口
- ・3.11を**収集・編集・発信**する拠点

<沿岸部の役割>

- ・宮城、仙台東部地域への玄関口
- ・3.11を**知り学ぶ**拠点



沿岸部拠点・東部地域の回遊性について

東部地域での経験の設計

○【資料4】東部地域での経験（長期イメージ）
に整理

○ 参考事例紹介

事例1) 阪神・淡路大震災（人と防災未来センター）

事例2) 新潟県中越大震災（中越メモリアル回廊）

事例3) 戦災の記憶の伝承（長崎さるく）

事例4) 人に焦点を当てたツアー（まいまい京都）

＜委員会での意見＞

- 観光の視点も含めて、有機的に人を誘導
- 3. 11オモイデツアーのような形での開催できないか
- 「人に会いに行く」「その地を好きになる」視点も重要

事例1) 阪神・淡路大震災 (人と防災未来センター)

- ・国の支援を得て平成14年4月に兵庫県が設置し、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構が運営
- ・阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することをミッションとしている。

<センター内での取組み>



震災学習プログラムに含まれる「語り部」の体験談
(1Fガイダンスルーム)



震災を語り継ぐコーナー
(3F震災の記憶フロア)

事例2) 新潟県中越大震災（中越メモリアル回廊）

- 新潟県中越大震災のメモリアル拠点である4施設、3公園を結ぶ回廊。
- 被災地である中越地域をそのまま情報の保管庫にする試み。それぞれの拠点を巡り、震災の記憶と復興の軌跡にふれることで「新潟県中越大震災」の巨大な実像を浮き彫りにする。
- メモリアル回廊の4施設ではそれぞれ語り部による講話や体験プログラムなどが用意されている。



事例2) 新潟県中越大震災 (中越メモリアル回廊)

中越メモリアル回廊全体図

妙見メモリアルパーク

新潟県小千谷市浦橋地先
TEL.0258-89-7480 (そなえ館)

おちや震災ミュージアム そなえ館

〒947-0026 新潟県小千谷市上ノ山 4-4-2
小千谷市民学習センター「楽集館」2階
TEL.0258-89-7480
開館時間 / 9:00 ~ 17:00
休館日 / 毎週水曜日 (祝日の場合は翌日)・年末年始

震央メモリアルパーク

新潟県長岡市川口武蔵塚地先
TEL.0258-89-3620 (川口きずな館)

長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 2-6
フェニックス大手イースト 2階
TEL.0258-39-5525
開館時間 / 10:00~18:00 (土・日・祝日は 17:00)
休館日 / 毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)・年末年始

やまこし復興交流館

〒947-0204 新潟県長岡市山古志竹沢甲 2835
TEL.0258-41-1203
開館時間 / 9:00~17:00
休館日 / 毎週火曜日・年末年始

木籠メモリアルパーク

新潟県長岡市山古志木籠地先
TEL.0258-41-1203
(やまこし復興交流館)

川口きずな館

〒949-7503 新潟県長岡市川口中山 1441 番地
川口運動公園内
TEL.0258-89-3620
開館時間 / 10:00 ~ 17:00
休館日 / 毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)・年末年始

越後川口IC	30分 16km	木籠メモリアルパーク	10分 6km	おちや震災ミュージアム そなえ館	30分 18km	やまこし復興交流館	7分 5km	震央メモリアルパーク	25分 13km	川口きずな館	15分 7km	妙見メモリアルパーク	25分 14km	きおくみらい	20分 7km	長岡IC
小千谷IC	30分 18km															

資料: 中越メモリアル回廊HPより

事例2) 新潟県中越大震災 (中越メモリアル回廊)

＜中越メモリアル回廊の主要施設＞

長岡震災アーカイブセンター ◦ きおくみらい



先進のIT技術を活用した知的情報集積拠点。
震災被災地地区の上を歩き、そこで起きたことを知ったら、中越メモリアル回廊を巡る旅へ。

おぢや震災ミュージアム ◦ そなえ館



地震を疑似体験し、発生から復興までの月日をたどることで防災意識を高め新しい発見を。
あなたの「そなえ」を見つけてください。

やまこし復興交流館 ◦ おらたる



破壊されたふるさとに戻った山古志の人々。そこには、守るべき里山や伝統文化がありました。
山の暮らしによる新しい交流の始まりへ。

◦ 川口きずな館



被災を通して育まれたもの。それは人と人の「絆」です。数多くの「絆の物語」にふれるひとりで新たな交流の未来を開きます。

事例2) 新潟県中越大震災（中越メモリアル回廊）

<モデルルート>

- ・中越メモリアル回廊では、モデルルートとして以下の5つを設定している。

モデルルート	
1 日 コ ー ス	中越メモリアル回廊施設周遊1日コース 長岡～山古志～小千谷～川口
	きおくみらい発 現地保存のメモリアルパーク中心1日コース 長岡～妙見～山古志～震央～小千谷
	川口きずな館発 中越復興の物語1日コース 川口～山古志～妙見～長岡
半 日 コ ー ス	中越メモリアル回廊周遊半日コース 小千谷～妙見～長岡
	中越メモリアル回廊周遊半日コース 川口～震央～小千谷

資料：中越メモリアル回廊HPより

事例3) 戦災の記憶の伝承 (長崎さるく)

項目	内容
開始時期	「長崎さるく博'06」2006年～ 「長崎さるく」2007年～
実施場所	長崎市内
運営体制	【主催】一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会 【協力】長崎市、市民ボランティア(ガイド)、 事業者・NPO法人等
概要	4つに分類される企画内容。 ・特製マップを片手に自由に歩く「遊さるく」 ・長崎名物・ガイド付きまち歩きツアー「通さるく」 ・専門家による講座や体験を組み合わせた「学さるく」 ・美味しい長崎を味わう「食さるく」



<戦災の記憶の伝承をテーマとしたコース>

- ・遊さるくには全45コースがあり、そのうち長崎原爆資料館をめぐるコースや、「平和コース」として、原爆落下中心地など戦争のゆかりの地をめぐるコースが4コース設定されている。
- ・各コースは「通さるく」の対象コースにもなっており、希望によりガイドをつけることも可能。

事例3 戦災の記憶の伝承（長崎さるく）

〈遊さるくの概要〉

- さるくマップを片手に自由に歩き回る。
- コースは立ち止まりながらゆっくり歩いて1時間半程度で設定。
- さるくマップは総合観光案内所（JR長崎駅構内）などで無料で入手できるほか、インターネットでもダウンロード可能。

◆さるくマップの例

さるくコースマップ 浦上界隈 被爆校舎で耳をすませば～原爆落下中心地から城山小学校へ～

被爆校舎で耳をすませば
～原爆落下中心地から城山小学校へ～

原爆落下中心地
原爆の中心地である浦上地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。この地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。この地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。

被爆校舎
原爆落下の瞬間に、この地区の小学校が被爆しました。この地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。この地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。

城山小学校
原爆落下の瞬間に、この地区の小学校が被爆しました。この地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。この地区は、原爆落下の瞬間に約1,000人が犠牲になりました。

長崎さるく

さるくコースマップ 浦上界隈

被爆校舎で耳をすませば
～原爆落下中心地から城山小学校へ～

原爆落下中心地から約500メートルの小高い丘の上。そこには子どもたちが通う小学校がありました。1945年9月9日午前11時42分、在校生1,500人、先生たちを含め約2,000人が犠牲になりました。生き残った子どもたちは何を思い日々を送ったのでしょうか。かつて「アトミック・フィールド」とよばれた地を模して、城山の丘をのぼって残存する被爆校舎を訪れるこのコースでは、原爆と子どもたちについて考え、書き、思いを伝えさせ、ふと足をとめ、そっと耳をすませば、何かが聞こえてきませんか。

原爆落下中心地から約500メートルの小高い丘の上。そこには子どもたちが通う小学校がありました。1945年9月9日午前11時42分、在校生1,500人、先生たちを含め約2,000人が犠牲になりました。生き残った子どもたちは何を思い日々を送ったのでしょうか。かつて「アトミック・フィールド」とよばれた地を模して、城山の丘をのぼって残存する被爆校舎を訪れるこのコースでは、原爆と子どもたちについて考え、書き、思いを伝えさせ、ふと足をとめ、そっと耳をすませば、何かが聞こえてきませんか。

コースマップの概要、所要時間、地図、QRコードなどが記載されています。

事例3) 戦災の記憶の伝承 (長崎さるく)

<「平和コース」の例>

被爆校舎で耳をすませば
～原爆落下中心地から城山小学校へ～

◆コース行程 (通常コース) ※夏季は異なる

原爆落下中心地碑 → 築橋と駒場町 → 防空壕跡 → 永井坂 → 被爆校舎 (城山小学校平和祈念館) → 少年平和像 → 原爆殉難者の碑 → 嘉代子桜 → 荒川平和桜

◆コース距離 約1.2km



城山小学校



城山被爆校舎

事例4) 人に焦点を当てたツアー (まいまい京都)

項目	内容
開始時期	2011年～
実施場所	京都を中心に実施
運営体制	【主催】まいまい京都実行委員会、(一財)京都ユースホステル協会 (有志たちで構成、参加費収入のみで運営している) 【後援】京都市、京都市交通局(公財)京都市景観・まちづくりセンター
概要	バラエティに富んだガイドさんとともに、誰もが知る観光資源ではなく、見過ごしがちだった京都の町の魅力を伝える、まちあるきミニツアー

<ガイドが魅力を伝えるツアー>

- 京都の住民がガイドを行う
- ガイドは依頼制、一般募集はしていない
- 一人当たりの平均参加回数は3.07回で、リピーターが多い
- 参加費 1,500円～
- 距離 1.5～3km
- 定員 15名

名物ガイドさんの一部ご紹介



女性僧侶
英月さん



京都本ライター
江角悠子さん



妖怪の子孫
葛城トオルさん



仏像ガイド
政田マリさん



京都府立植物園名譽園長
松谷茂さん



古い師
三井敏弘さん



京町家大工棟梁
山本茂さん



京都鉄道博物館
よしだ れなさん

他にもユニークなガイドさんがたくさん!

事例4) 人に焦点を当てたツアー (まいまい京都)

＜それぞれの視点で回ることのできるツアー構成＞

- ・大工の棟梁、建築士、老舗呉服屋店主、カメラマン、占い師、ライターなど様々な視点を持ったガイドがツアーを企画・実施

＜コース例＞

【棟梁】京町家大工棟梁とその仕事を訪ねて、五条坂から産寧坂へ
～町家を数寄屋風へ！伝統的建造物群保存地区における改築の“技”～



【京野菜】野菜ソムリエの、おしゃべりクッキング
～錦市場でお買い物、おぼんざい料理ショー、そして食べる！～



【N電】廃線マニアと行く、京都市電北野線「N電」の痕跡 ～単線・複線・転車台…奇跡の痕跡！旧京都電燈変電所から北野車庫跡まで～



【月桂冠】醸造研究員と行く、月桂冠の工場探検
～酒造りの不思議！バイオサイエンスの現場へ～



【風呂屋】京都銭湯部とゆく、モザイクタイルの美術館・柳湯へ
～町家から銭湯まで、近代京都が愛したタイル文化を訪ねて～



【東七条】部落史研究者と歩く、首切り又次郎の生きた時代
～本当の所で差別と向きあう～



ご議論いただきたいこと

【論点】

- ① 東部地域の回遊ルートへ、市民一人ひとりが繰り返し足を運ぶために必要なこと何か
- ② 回遊の仕組みの実現のために、沿岸部の利活用拠点に必要な機能は何か
- ③ 現地で得た経験を、沿岸部の利活用拠点でフィードバックする仕掛けとして考えられることはなにか